



始



5  
5

14. 5-745



北經濟資料  
第八八號  
中滿地方ニ於ケル水田經營收支  
滿鐵。北滿經濟調查所編

14.5  
745

昭和十三年二月二十八日  
北經濟資料第八八號

中滿地方ニ於ケル水田經營收支

滿鐵。北滿經濟調查所

14.5  
745



第一章	概	說	1
第一節	調查農家ノ選定	1	1
第二節	調査農家概況	1	1
第二章	農家ノ經營收支	1	1
第一節	農家ノ收入	1	1
第二節	農業經營支出	1	1
第三節	收支決算	1	1
第三章	結	論	1

發行所寄贈本



昭和三年二月二日

東京



ハシガキ

本稿ハ京圖沿線地方ニ於ケル自由移民ノ設定對策案ノ基本調査トシテ  
同沿線ニ所在スル鮮人農家ノ水田經營ニ就キ之カ有利性如何ヲ檢討調査  
セルモノデアル。

擔當者 杉本一郎

金 仁 基

昭和十三年二月二十八日

滿鐵。北滿經濟調査所

## 第一章 概 説

### 第一節 調査農家ノ選定

中部滿洲ニ於ケル水田經營ノ狀況ヲ明カナラシメムカ爲調査地域ヲ南滿ノ北端ニ位スル奉吉線梅河口地方(奉天省)及北滿ノ南端ニ位スル京圖線蛟河地方(吉林省)ノ二箇所ニ選定シ本調査ヲ施行シタ。本調査ノ目的ヲ充分達成セムカ爲ニハ本調査ノ結果ノミナラス各地ニ於ケル調査トノ比較ヲ行フ必要カアルノハ勿論テアルカ、北滿ノ資料ニ關シテハ「北經經濟資料第八冊」北滿ニ於ケル畑作經營ト水田經營ノ比較」ヲ参照サレタイ。

本調査ノ戸數ハ僅少(五戸)テアルカ、比較的堅實ナル農家テアツタコト及集計ノ結果ト調査員ノ客觀的觀察、農家ノ説明等カ大體ニ於テ合致スル結果ヲ得タルコトニ依リ水田經營ノ概略ヲ窺フニ足ル資料ト信スルノテアル。

本調査農家ハ何レモ縣農テアルカ、第一號ヨリ第三號迄ハ梅河口地方、四號及五號ハ蛟河地方テアル。

### 第二節 調査農家概況

#### (一) 耕作面積

本調査ニ於ケル各戸ノ耕作狀況ヲ見ルニ全部水稻單一作テアツテ、水田及畑作ノ混合經營ヲ

農家番號	經營面積 畝	家族員		家族ノ内譯				常備		農業能率 換算量	農業勞働量 換算面積
		男	女	主トシテ農業 ニ從事スル者	補助的ニ農業 ニ從事スル者	農業ニ從事 セサル者	男	女	男		
一	六・〇	三	三	二	一	一	二	一	一	三	三・〇
二	九・〇	五	五	三	一	一	二	一	一	四	四・〇
三	四・八	二	三	一	一	一	二	一	一	三	三・〇
四	一〇・〇	九	八	四	一	一	三	一	一	三	七・〇
計		一七	一七	一四	四	四	九	三	三	一〇	一〇・七

第一表 經營面積、家族、常備表

爲セルモノハ存在シナイ。水田地帯ニ於ケル鮮人ノ一般的狀況ハ單一耕作ニテ混合耕作ハ寧ロ例外テアル。本調査農家ニ於テモ水田ノ畦畔或ハ宅地ノ一部ヲ利用シ大豆、蔬菜等ヲ自家用トシテ栽培セルモノモアルカ、取ルニ足ラヌモノテアルカラ耕作面積トシテハ水田ノミヲ計上シタ。

本調査ニ於ケル一戸當平均面積ハ七・一六畝、常備勞力一人當耕作面積ハ一・七畝ニ當ル(第一表參照)。



啊トスルナラハ此ノ程度ノ常備ハ當然必要トナルノテアル。又一面ヨリ觀察スルニ、水線工事  
 及畦作リノ如キハ三人一六人ノ共同ヲ要シ、打穀ハ四人一六人ノ共同作業テアル。之カ爲前記  
 作業ニ於テ自家勞力ノ之ニ滿タサルトキハ、日工ノ使用或ハ勞力交換ニ依リ之ヲ補ハナケレハ  
 ナラヌ。然ルニ繁忙期ニ於テハ日工ノ缺乏、勞力交換ノ不便等モ存スルヲ以テ稍餘裕アル農家  
 ニ於テハ常備ヲ使用シ以テ作業上勞力ノ圓滑ヲ圖ルノテアル。  
 然シナカラ右ノ常備以外ニ時ニ繁忙期ニ於テハ臨時勞力ノ雇傭ヲ餘儀ナクサレル。其ノ詳細  
 ハ第二表ノ如クテアル。

第二表 日工雇傭數(延人員)

番 號	畦 作 り	播 種	除 草	收 穫	調 製	計
一	六	一〇	六〇	三〇	二〇	一二六
二	一	一	五〇	三〇	一	八〇
三	一	一	一	一	一	一
四	一	一	一	一	一	一
五	一	一	一	一	一	一
合計	六	一〇	一二七・四	一三〇	六・六	五〇・二
一戸當平均	一・二	二・〇	二七・四	一三・〇	六・六	五〇・二



年傭ニ對スル勞賃ハ租ニテ支拂ヒ、日工ニ對スル勞賃ハ現金デアルカ、年傭ノ勞賃及雇傭期間ハ次ノ如シ。

第三表 年傭勞賃及雇傭期間

番號	一	二	三	四	五	計	一人當
常傭	二	一	二	三	二	一〇	
現物勞賃	一六・〇	八・〇	一六・〇	二九・〇	二二・〇	九一・〇	
雇傭期間	一〇箇月	一〇	一〇	一〇	一〇		
摘	一名ニ付八石		一名ニ付八石	一名ハ一二石、一名ハ一〇石、一名ハ七・〇石(六箇月)	一名ニ付一一石		
要							

日工勞賃ハ地方ニ依リ又作業種類ニ依リ一様テナイカ、本調査ノ範圍内ニ於テハ左ノ如シ。

第四表 日工賃銀

地方別	作業別一日日工賃			
	畦作り	播種	除草	收穫
海河口地方	〇・六〇	〇・六〇	〇・六〇	〇・六〇
蛟河地方	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	一・〇〇

三 小作條件

本調査農家ハ全部小作テアル。調査地方全般ヲ通シテ見ルモ自作ヲ爲セルモノハ少ク、大多數ハ滿人ノ土地ヲ小作セルモノテアル。

海河口地方ニ於テハ分益小作制行ハレ、全收量(藁モ含ム)ノ四五%ヲ刈取後束ノ體圍上ニ於テ地主ニ納メ、殘餘五五%ハ小作人取得ス。蛟河地方ニ於テハ一畝當穀四石(舊石)ヲ小作料ニシテ地主ニ納入スル定額制度テアル。

小作期間ニ就テノ定メハナイヤウテアルカ、普通ノ慣習トシテハ小作人ニ於テ小作條件ヲ充分履行スルニ於テハ永久ニ耕作スル權利ヲ認メラレテ居ル。之カ爲當地方ノ水田ニハ小作權利金カ發生附隨シテ居ル。即チ水田開墾者タル小作人カ其ノ小作地ヲ他人ニ讓渡スル場合一定金額ニテ小作權ヲ賣ルノテアル。

此ノ種ノ權利金ヲ梅河口ニ於テハ「畦錢」ト稱シテ畦作りニ要セシ費用ヲ意味シテ蛟河ニ於テハ「開墾費」ト稱ジテ水田開墾ノトキノ費用ヲ意味シテ居ル。結局畑或ハ荒地ヲ開墾スルニハ相當ノ勞力及費用ヲ要スルコトハ當然ニテ、小作人ニ於テ斯ル費用ヲ負擔スル以上之カ權利金化スルニトハ當然テアラウ。一晌當リノ權利金ハ梅河口地方ニ於テ五〇一七〇圓、蛟河地方ニ於テハ二〇一五〇圓テアル。

四 地 價

地價ハ益上昇ノ傾向ニアル。調査當時ノ地價ハ梅河口地方水田一晌ニ付二五〇一三〇〇圓、蛟河地方一八〇一二〇〇圓テアル。

四 役畜飼養狀況

調査農家五戸中役畜ヲ飼育スルモノハ三戸ニシテ、役畜飼養農家ニ就テ見ルニ役畜一頭當リ耕作面積ハ五・五晌ニ當ル。農民ノ言ニ依レハ役畜一頭ノ耕作面積ハ五晌ヲ最大トシ、五晌ニ滿タサル耕作面積ニ於テ役畜ヲ所有スルハ不經濟ナリト言フ。

第五表 役畜頭數

農家番號	耕作面積	牛		馬		合 計	
		頭數	價 格	頭數	價 格	頭數	價 格
一	六・〇	一	一〇〇・〇〇	一	一	一	一〇〇・〇〇
二	九・〇	一	一	一	一	一	一

合計	五	四	三
三五・八	五・〇	一一・〇	四・八
四	一	二	一
五二〇・〇〇〇	一四〇・〇〇〇	二八〇・〇〇〇	一
一	一	一	一
六〇・〇〇〇	一	六〇・〇〇〇	一
五	一	三	一
五八〇・〇〇〇	一四〇・〇〇〇	三四〇・〇〇〇	一

内 農作業概略

當地方水田作業概略次ノ如シ。

耕起	穀雨—立夏 (四月下旬—五月上旬約二〇日間)
水縁修理	
畦作り	立夏—芒種 (五月上旬—六月上旬約三〇日間)
播種	
除草	夏至—立秋 (六月中旬—七月中旬、三〇日)
刈取	秋分—霜降 (九月下旬、約三〇日)
集束	刈取後約一五日間
調製	集束後約三〇日間

第二章 農家ノ經營收支

第一節 農家ノ收入

鮮人農家ノ收入ハ甚簡單ニテ水稻ノ收入カ即チ全收入デアル。

第六表 一晌當收入

番號	主產物		副產物		合計
	收量	價額	收量	價額	
一	七三石	八七六圓	七三束	八圓七六	八八四圓七六
二	一二〇〇	一、四四〇〇	一〇〇〇〇	一二〇〇〇	一、四五二〇〇
三	六四〇	七六八〇	四八〇〇	五〇七六	七七三〇七六
四	一六五〇	一、九八〇〇	一、〇〇〇	一三〇二〇	一九九三〇二〇
五	六〇〇	七二〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七二六〇〇〇
合計	四八二〇	五七八四〇〇	三八一〇〇	四五〇七二	五八二九〇七二
一晌當平均	一三、四六一	一、六一五二	一、〇六四	一〇二八	一六二〇八〇

備考 粳一石一二〇〇圓 粟一束一〇二圓

一响當收量ノ平均一三・四六石ハ北滿一帯ニ比較スレハ稍少イ様テアル。當地方ハ開墾年度古ク地力モ既ニ消耗シツツアルニ拘ラス肥料ヲ充分用ヒサル結果收量ノ減少トナツタモノデアラウ。

第二節 農業經營支出

(一) 種苗費

一响當種苗費ハ平均級〇・三五石。價額四・二〇圓テアル。

第七表 一响當種苗費

差號	自給		購入	
	播種量	價額	播種量	價額
一	二石〇	二四・〇〇	!	!
二	二・五	三〇・〇〇	!	!
三	一・六	一九・二〇	!	!
四	四・四	五二・八〇	!	!
五	二・〇	二四・〇〇	!	!
平均	〇・三五	四・二〇		

(二) 肥料費

本調査ニ於テ肥料ヲ用ヒタル農家ハ蛟河ノ二戸ノミテアルカ其ノ種類ハ稻稈ノ一部及少量ノ土糞テアル。之等ノ肥料ハ數量ニ於テモ不明デアリ、又價格ノ評價モ甚困難ナル爲肥料費トシテ計算セサルコトトシタ。

(三) 勞力費

家族ノ勞力ニハ勞賃ヲ計算セス専ラ雇傭勞力ニ對スル勞賃ノミヲ計上スレハ次ノ如シ。  
(年工ニ對スル現物勞賃量ハ第三表參照)

第八表 一晌當勞力費

番 號	現 年 工 物		現 勞 賃 金		現 日 工 賃 金		現 合 物 賃 金		現 計 金 計	
	現 年 工 物	現 勞 賃 金	現 日 工 賃 金	現 合 物 賃 金	現 計 金 計	現 日 工 賃 金	現 合 物 賃 金	現 計 金 計	現 計 金 計	
一	一九二・〇〇	二二・〇〇	七五・六〇	一九二・〇〇	二七・七〇	一九二・〇〇	二七・七〇	二七・七〇	二七・七〇	
二	九六・〇〇		五〇・〇〇	九六・〇〇	四・六一	九六・〇〇	四・六一	四・六一	四・六一	
三	一九二・〇〇		一八・六〇	一九二・〇〇	二七・七〇	一九二・〇〇	二七・七〇	二七・七〇	二七・七〇	
四	三四八・〇〇		二一・〇〇	三四八・〇〇	二七・七〇	三四八・〇〇	二七・七〇	二七・七〇	二七・七〇	
五	二六四・〇〇		二一・〇〇	二六四・〇〇	二七・七〇	二六四・〇〇	二七・七〇	二七・七〇	二七・七〇	
平均	二七・七〇	〇・三四	四・六一	二七・七〇	四・九五	二七・七〇	四・九五	三二・六五	三二・六五	

(四) 畜力費

調査農家五戸ノ内二戸ハ役畜ヲ所有セサルコトハ概説ノ項ニテ述ヘタカ、此ノ二戸ハ役畜ヲ賃借シテ耕起作業ヲナシテ居ル。

從テ畜力費トシテ、家畜購入原價償却費、飼料費、役畜賃借料ヲ計上ス。

第九表 一响當畜力費

平均一响當	合計	五	四	三	二	一	番 號 償 却 額	飼料		畜力 賃借料	合計
								自給	購入		
	二七・〇〇	二〇・〇〇	—	—	—	七・五〇		一〇・九五	五〇・〇〇	六〇・九五	六八・四五
	一〇・九五	—	—	—	—	—		—	—	—	—
	一三六・五〇	一九・〇〇	六七・五〇	—	—	—		—	—	—	—
	一四七・四五	一九・〇〇	六七・五〇	—	—	—		—	—	—	—
	五四・〇〇	—	—	一五・〇〇	三九・〇〇	—		—	—	—	—
六・四〇	二二八・九五	三九・〇〇	六七・五〇	一五・〇〇	三九・〇〇	—		—	—	—	—



(五) 材料費

材料費ハ粃ノ運搬ニ要スル麻袋ノ費用ノミテアル。然シ麻袋モ普通粃ノ購入者タル精米業者或ハ根棧業者カラ持參スルノヲ普通トスルカラ、農家トシテハ麻袋ノ必要ハ僅少テアル。

第十表 一响當材料費

番 號	材 料 費
一	一圓五〇
二	一圓五〇
三	一圓五〇
四	一圓五〇
五	一圓五〇
一响當平均	〇・三八

内 農 具 費  
第十一表 一晌常農具費

番 號	大農具償却費	小農具購入費	修繕費	合 計
一	九。三五	六。〇五	！	一五。四〇
二	三。〇〇	一。六〇	！	四。六〇
三	一九。二七	二。二〇	！	二一。四七
五	一一。五八	六。七五	！	一九。三三
合 計	五一。二〇	一六。六〇	！	六七。八〇
一晌常平均				一。九〇

(七) 農 舍 費

住居用家屋ハ農耕ニ關係ナキモノトシテ取扱ヒ、純然タル農舍ノミニ付計算ス。

第十二表 一响當農舍費

番 號	農舍減價額	修繕費	合 計
一	〇・八〇	四・〇〇	四・八〇
二	二・〇〇	!	二・〇〇
三	三・〇〇	!	三・〇〇
四	一・三三	!	一・三三
五	一・六七	!	一・六七
合 計	八・八〇	四・〇〇	一二・八〇
一响當 平 均			〇・三六

(八) 諸 負 擔 費

本調査ニ於ケル農家ノ負擔トシテハ民會費及自衛團費ヲ水田經營ノ面積ノ多少ニ應シテ支拂ツテ居ルカ、之ヲ農業經營費ノ一部ト見ルコトハ出來ナイ。其ノ他土地ニ斯ル一切ノ税金ハ地主タル滿人カ負擔シ、小作人タル鮮農ハ負擔シナイ現狀テアル。

然シ乍ラ水田ハ如何ナル地方ニ於テモ集團ヲナシ、一農場ヲ形成スルノカ普通テアル。即チ水利ノ必要ノ爲ニ一水溝ノ灌溉ニ依存スル各農場員ハ水利灌溉ノ爲ニ共同負擔ヲ負ハネハナラヌ。又水利ノ便最モヨキ所ニ於テハ年々水路ノ修理ノ爲ニ各戸ニテ労働ヲ奉仕スレハ足ルコトモアル。此ノ場合家族中ヨリ労働奉仕ニ出ルコト能ハサル時ハ日工ヲ雇傭シ提出スル。本調査ノ取扱トシテハ水線修理ノ奉仕労働ニ費用ヲ要シタリ場合ハ勞力費ノ項ニ計算シ、本項ノ負擔トシテハ農場費及水利灌溉費ヲ計上ス。

農場費ハ農場全體ニ對スル費用及農場ヲ管理スル人ニ對スル費用テアル。水利費ハ水路地借用料及水路監督人ニ對スル給料ニ充テラレルモノテアル。尤モ農場費、水利費ヲ嚴密ニ分ケテシテ徵スル場合モアルノテアル。水路地借用料ハ小作料ノ性質ヲ持ツモノテアルカ農場共同ノ負擔タルハ謂フ迄モナイ。

本調査ニ於テハ梅河口地方ノ分(一號—三號)ハ斯ル農場費、水利費ノ負擔ヲ有セス、蛟河地方ハ負擔シテ居ル。即チ次ノ如シ。

農場費	水利費	計
二・三三	二・三六	四・六九

右ハ現物負擔ヲ評價ス。

(九) 小作料

小作關係ニ就テハ第一章概説ニ於テ説明シタ通テアルカラ説明ヲ省キ各戸ノ支拂ヒタル數量ヲ示セハ左ノ如シ。

第十三表 一晌當小作料

平均	合計	五	四	三	二	一	主産物		副産物		價格合計	備考
							面積	數量	價格	數量		
五・一	三五・八一	五・〇	一一・〇	四・八	九・〇	六・〇	三三・〇	三九六・〇〇	三・三〇〇	四・〇〇	四〇〇・〇〇	五收量ノ四五%
	一八三・〇	二・三	四・四	二・九	五・四	三・三	三三・〇	六四八・〇〇	四・五〇〇	四・〇〇	四〇〇・〇〇	
	三・一九六・〇〇	二七六・〇〇	五二八・〇〇	三四八・〇〇	六四八・〇〇	三九六・〇〇	三・一六〇	二・一六〇	三・二五	三・二五	三・二五	
	九九六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
	一二・九三二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
	二〇八・九三	二七六・〇〇	五二八・〇〇	三五一・二五	六五三・六三	四〇〇・〇〇	一	一	一	一	一	
		一晌當四石二	一晌當四石〇									

第三節 收支決算

以上ニ依リ大體ノ説明ヲ終リ各農家別ノ收支ヲ算出比較シ、又調査全農家ノ平均數字ニ依ル  
收支決算ヲ求メ當地方ニ於ケル水田經營ノ實相ヲ明カナラシメタイ。先ツ經營費ヲ見ルニ、

番號	面積	種苗費	肥料費	勞力費	畜力費	材料費	農具費	農舍費	變場及水利費	小作料	合計	一响當經營費
一	六・〇	二四・〇〇		一七九・六	六八・五		一五・四〇	八〇		一四〇〇・〇〇	七九二・二五	一三〇・〇〇
二	九・〇	三〇・〇〇		一四六・〇〇	三九・〇〇	一・五〇	四・六〇	二・〇〇		一六五三・六三	八七六・七三	九七・四一
三	四八・二	一九・二〇		一八九・〇〇	一五・〇〇		七・〇〇	三・〇〇		一三五一・二五	五八七・四五	一二・三八
四	一〇・五	二・八〇		一五六・六〇	六七・五〇	二・〇〇	一・四七	一・三三	一・五九	一五二八・〇〇	一〇〇一・二八	一〇〇・一一
五	五・〇	三・〇〇		一八五・〇〇	三九・〇〇		九・三三	一・六七	三・四五	一三七六・〇〇	六六八・四五	一三三・六九

一响當經營費ハ九七圓一三三圓テアルカ、勞力費ト小作料ノ兩者カ經營費ノ主ナル部分テ  
アル。

次ニ全平均ニ依ル一响當經營費ヲ見ルニ次ノ如シ。



即チ小作料トシテ收量ノ四五%ヲ納入スルトセハ一畝當經營費ハ一二〇・七八圓トナリ、小作料ヲ四石トスレハ經營費ハ九八・五八圓トナル。

先ニ示シタ經營費ト農家ノ收入ヲ差引シ戸別ノ收支ヲ見レハ次ノ様テアル。

番號	收 入	支 出	差引損益	一畝當利益
一	八八四・七六	七九二・二五	九二・五	一五・四二
二	一、四五二・〇〇	八七六・七三	五七五・二七	六三・九二
三	七七三・七六	五八七・四五	一八六・三一	三八・八一
四	一、九九三・二〇	一、一〇一・二八	八九一・九二	八一・〇八
五	七二六・〇〇	六六八・四五	五七・五五	一一・五一

次ニ平均經營費ニ依ル收支ヲ見ルニ、收量ヲ平均一三石ト見レハ、

收 入	支 出	差引利益
一五六・〇〇	(一) 一二〇・七八	三五・二二
	(二) 九八・五八	五七・四二



### 第三章 結 論

鮮人ノ滿洲移住ハ彼等ノ特殊技能タル水田耕作ニ從事スルコトニ依ツテ著々ト進メラレ今ヤ兩滿、中滿ハ謂フ迄モナク、北滿各地ニ於テモ水利ノアル所必ス彼等ノ移住ヲ見ル狀態テアル。

而シテ鮮人ト滿人ノ關係ヲ見ルニ、人種的感情問題、小作關係ヲ繞ル紛争等種々ノ困難ナル問題カ存スルノテアルカ、生産分野ヲ異ニセル點ニ於テ直接經濟的ノ競争關係ヲ有セサル點ハ鮮人ノ滿洲移住ヲ容易ナラシメテ最大原因ト認メラレルノテアル。水田經營ハ既ニ見タル如ク相當有利ナルモノテアル。畑作經營ニ於テハ小作ノ場合ハ相當大規模ニアラサレハ收支償ハサルコトハ常識トシテ何人モ認ムルトコロテアルカ、水田經營ニ於テハ極ク小面積ノ小作農ニテモ有利ナル經營ヲ行ヒ得ル。此ノ點ニ於テ將來ニ於テモ鮮人ノ滿洲移住ハ水田適地ノ存スル限リ活潑ニ繼續シ得ルモノテアル。彼等ノ開田狀況ヲ見ルニ手ノ勞働ニテ能フ限リ水田ノ開發ヲ爲セルモノニテ資本ヲ投シテ完全ナル設備ニ迄進メルモノハ稀テアル。從テ一度旱害、水害等ニ遇ヘハ其ノ土地ヲ放棄シテ他ニ移動スルニ至ル。鮮農ノ移動性激シキハ彼等ノ放浪性ニ依ルトハ云ヘ、又開田容易ナル土地ノ存在スルニ依ルノテアル。斯テ數年間ノ耕作ノ後收穫ノ減少スルニ至レハ次ノ新シキ土地ヲ求めて移動スル場合モアルノテアル。

本篇ニ於テ經營支出ヲ檢討シタル際、經營費ノ主ナル部分ハ勞力費ト小作料ナルコトヲ見タ  
ノテアルカ、右ノ經營ノミナラス其ノ他ノ經營モ將來ニ於テ激變ヲ來スコトハアリ得ナイト考  
ヘラレル。然シナカラ水田ノ開發カ更ニ進ミ水田經營カ固定スルニ至ラハ（中國地方ハ既ニ固  
定ノ域ニ達シテ居ルコトハ小作權利金ニ依リ推察出來ル）相當程度ニ肥料ヲ要スルニ至ルコ  
ト及灌溉設備ニ資本ヲ要スルニ至リ水利費負擔ノ重クナルコトニヨリ將來ノ經營費ハ此ノ兩費  
目ノ増加ニ依リ次第ニ多額ヲ要スルニ至ルコトハ明テアル。斯ル時代ニ進ミテモ尙水田經營カ  
他作物ニ比シ有利ナリヤ否ヤハ一ニ米價問題ノ將來ニ懸ツテ居ルノテアル（米作ノ他作物ニ比  
シ著シク有利ナルコトハ北經濟資料第八四號北滿ニ於ケル畑作經營ト水田經營ノ比較參照）。

以 上

145  
745

終